こんな活動です

ふるさと「たのめの里」を知り、共に愛し、貢献できる子供たち

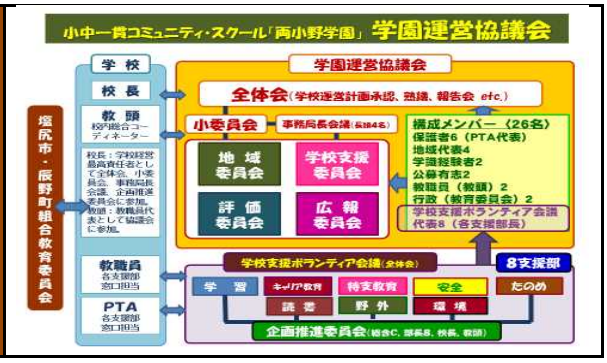
～たのめ科・アントレプレナー学習・地域貢献型生徒会による「夢プロジェクト」の活動を通して～

長野県塩尻市辰野町	●活動名	●関係する学校名
	たのめの里の未来を切り拓く　夢プロジェクト	塩尻市辰野町中学校組合立両小野中学校 辰野町塩尻市小学校組合立両小野小学校

協働活動開始年度	平成　24　年度	関係学校数	2　校	のべ学級数	12　学級	のべ児童・生徒数	210　人
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習	―				
	地域未来塾	放課後子供教室	外部人材を活用した教育支援活動				
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数				
	1人		5人				
学校運営協議会	指定・設置日	ボランティアの数	延べ登録人数	企業・ＮＰＯ等との連携	無		
	平成27年4月1日設置		70人				
参考URL	https://www.shiojiri-ngn.ed.jp/ryoono-j/						

●連絡先　塩尻市辰野町中学校組合立　両小野中学校　☎ 0266-46-2957

●体制図



●活動の概要・経緯

平成23年度、地域主導による施設分離型の小中一貫「両小野学園」が設置された。そして翌24年度より、小学校では教育課程特例校制度による「たのめ科」が、中学校では総合的な学習の時間を使った「ブリリアント活動」（地域人材の活用による文化活動）と「アントレプレナー学習」（小学校「たのめ科」で学んだことを基盤に、地域を活性化し、地域に発信し、貢献する活動）をスタートさせ、本格的に地域学校協働体制による「ふるさと学習（キャリア教育も含む）」が始められた。この年度から、教育に対する地域の力強い支援を基盤に、小中一貫教育に保育園も加え、保小中一貫教育体制も整えられた。平成29年度には、保小中一貫教育「両小野学園」のグランドデザインも整備され、学園が願う園児・児童・生徒の姿を「ふるさと『たのめの里』を知り、共に愛し、『たのめの里』に貢献できる子ども」とした。昨年度、生徒たちから「自分たちも、この地域に生きる一人ひとりなので、もっと地域貢献する中学生でありたい。」という申し出があり、「たのめの里：夢プロジェクト生徒会」が立ち上げられ、より主体的で積極的な地域貢献を行おうと、学園運営協議会に参加したり、公民館活動で行われる地域の課題解決講座等に参加したり、地域の行事に参画したりしてきている。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

○地域の学校教育参画の協働活動：「たのめの里：教育の日」を企画実施している。公民館活動が企画していた学校開放講座を一歩進めて、地域募集による「中学校一日入学」を実施している。2時間の授業参加、「ふるさとコンサート」参観、給食・清掃、生徒とのパネルディスカッションを実施し、生徒と共に学ぶ教育の日を設定した。「ふるさとを『共に愛し』」の具現の活動となり、今後、企画内容が更に豊かになっていくことが考えられる。

○地域活性活動としての協働活動：地域貢献型生徒会「たのめの里：夢プロジェクト生徒会」との協働活動。夢プロジェクトに協働し、地域の文化遺産（県宝）の『油屋清掃』、地域の山を名所にしようと植樹活動をした『僕らの記念樹』、地域活性化活動としての『小野宿市』へ共に参画している。夢プロジェクト生徒会は生徒と地域の絆を深め、地域と学校を結ぶ活動となり、生徒自身の「地域の未来の担い手」としての意識が高まってきた。

○学校支援ボランティアの積極的な協働活動

たのめ科：小学校（自然・歴史・文化・産業・人の生き方）に関わる探求的・体験的学習への支援。アントレプレナー学習・ブリリアント学習への支援。

【実施に当たっての工夫】

○たのめ科・アントレプレナー学習・ブリリアント学習等を通して、地域の教育資源を活用し協働する中で、地域のことを知り、地域を愛する子供を育成する地盤が本学園にはある。こういった中、地域貢献型生徒会を昨年10月から構想し、12月の引き継ぎ時から活動を開始した。上記の活動に、生徒会理事会が、計画段階から事務局会、役員会に、大人に混じって役員として参加し活動に取り組んだ。また、アントレプレナー活動とも、うまく活動を絡ませながら活動した。昨年度、アントレプレナー「地域広報・キャラクターグループ」では、地域の民話をもとに作成した「うとう」というキャラクターを制作し、広報活動を展開している。知的財産として、著作権登録の申請を進めながら、グッズ制作にも企業と協力・作成し、「小野宿市」でも販売活動などを通して、地域PR活動を進めてきたが、地域と生徒が直接対話し、地域行事への参加を企画段階から生徒が関わるようにすることで、一層協働活動が一体化し深まってきていて本物の地域貢献の姿が見えてきた。

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

○運営協議会による協議（熟議）と地域教育協議会（学校支援ボランティア）による協働が、コミュニティ・スクールの両輪だとすれば、その両輪をつなぐ軸の部分が、一貫教育を概念とする「学校」であり、両輪を回す軸の部分が地域貢献型生徒会だと考えられる。地域貢献型生徒会が、運営協議会でも自分たちの意見を述べ、地域ボランティアの方の力を得ながら課題解決の活動に取り組むことで、地域の連帯感が深まり、生徒自身も「地域の一員」としての自覚を深めている。一方、地域貢献の志や願いをもった生徒の取組の姿は、地域活性化の力となり、大きな刺激となっている。地域行事には、生徒が運営そのものに携わり、役割をもって活動することで地域の方から認められ、感謝されることにより、生徒一人ひとりに大きな「自己有用感」を生み「自己肯定感」を高め、地域により一層貢献し、地域の方々と共に「地域創生」の一翼を担いたいという思いが育まれようとしている。

● その他

保小中一貫教育の集大成としての「地域貢献型生徒会」による夢プロジェクト2号「僕らの記念樹」、夢プロジェクト3号「小野宿市」の様子

数年後、この紅葉山を日本でも有名なものみじの名所になるよう、塩嶺カントリーの支援を受けて、地域の北小野財産区の方の指導を受けながら植樹をしました。

【両小野PRキャラクター「うとう」】

旧中山道にある「小野宿」を地域の方と協力して盛り上げる活動。そばの振舞いの手伝いや、プールでのキャラクターグッズ販売、酒蔵コンサートで参画しました。